

# 図書館報 みかづら

和歌山県立医科大学図書館三葛館

## 目次

図書館三葛館に思う-----	1	図書館サポーターズクラブ“Lapo”活動報告-----	6
生活の彩り-----	3	<b>MIKAZURA NOW!</b> -----	7
図書館の思い出-----	4	facebook ページを開設しました！-----	7
本は学びの玉手箱-----	5	平成23年度三葛館活動記録-----	8
図書館での出会い-----	6	編集後記-----	8

## 図書館三葛館に思う

医学部 解剖学第一教室 教授・図書館長 鶴尾吉宏

和歌山県立医科大学医学部・保健看護学部の両学部の活動内容は、教育・研究・診療のいずれの分野においても、その成果の質と量は着実に向上を続けています。その結果として本学の教職員および学生が執筆する学術論文が国内外の一流雑誌へ掲載される数は年々増加しており、研究内容を関連する学会等にて発表する機会も多くなり、各部署から発行される活動報告書等も年を追うごとにその厚みを増していることは、喜ばしいことです。

大学図書館は、教育および研究の要を担っており、大学にとって非常に重要な存在です。その使命として、学生および教職員が図書館を十分に利用して能動的な活用ができるように、また学術情報センターとして医学・保健看護学などに関する最先端の情報をインターネットなどの電子媒体によって効果的に収集できるように支援する必要があります。そのためには、蔵書のデータベース化や効率の良い情報収集の利用法などを提供し、さらに、情報ネットワークを充実させて、大学の教育・研究活動によって得られた知的資産を学外に発信させていかなければなりません。

図書館三葛館は、保健看護学部生、医学部生、保健看護学研究科大学院生、助産学専攻科学生、保健

看護学部・医学部の教職員などの方々によって活発に利用されています。特に保健・看護に関係する和・洋雑誌を豊富に取り揃えており、保健・看護に関する新しい情報が入手できる貴重な施設であります。保健・看護に関する知識については、電子媒体よりはむしろ冊子体としての書籍によって情報提供されていることから、三葛館における保健・看護に関する書籍の利用は非常に活発であり、学外からの利用も頻繁に行われています。また、一般教養の図書も豊富に揃えており、専門分野の書籍だけでなく、興味の内容の本もたくさんありますので、自分が面白いと思える本を是非探してください。

このように、学生および教職員の多くの方々から図書館三葛館は大いに利用されていますが、三葛館の館内スペースは限られており、閲覧する座席数や蔵書の保管場所の確保は十分とは言えない状況にあります。このような点はできるだけ早い時期に改善して、より快適な環境にある図書館として整備していきたいと考えています。そして、蔵書や文献の検索を簡便にできて、最先端の情報を入手しやすいような場を目指していきます。

和歌山県立医科大学は、学長の指揮のもと「日本のトップクラスの医療系大学を目指す」という目標に向かって、全学をあげて各分野における最先端の研究や診療が着実に進んでいます。科学研究費補助金を含む外部資金の獲得件数とその金額もこの数年間で格段に増加しています。このように本学の教職員および学生による日々の研鑽と努力によって各分野で大きな成果が上がっていますが、最先端の研究や教育を続けていくために大学図書館が果たしている役割は非常に大きいものです。これからも大学図書館における学術情報の収集と活用をさらに充実させて、また快適に今まで以上に図書館を利用してもらえるように、学生ならびに教職員からの要望に迅速かつ効果的に応えていきたいと考えています。



## 洋雑誌の大部分を電子ジャーナルに変更し、冊子を中止しました

2013年1月より、洋雑誌のほとんどが電子ジャーナルになりました。これは、三葛館の本棚が満杯になってきたので、できるだけ冊子を増やさないための措置です。これまで、電子ジャーナルと冊子の両方を購読していたものは冊子を中止して電子ジャーナルのみとなります。冊子のみを購読していたものは電子ジャーナルに変更しました。このことにより、図書館だけでなく、学内のすべての端末から電子ジャーナルを閲覧・印刷・ダウンロードすることができます。

CINAHLなどの各種データベースからフルテキストへのナビゲーションシステムや本学電子ジャーナルリストにも搭載していますので、研究室や病棟からもどうぞご利用ください。

## 生活の彩り

保健看護学部 教授・副館長 鈴木 幸子

保健看護学部図書委員会では、三葛館での貸出冊数が多い学生を、4年生の2月に表彰している。国家試験の受験票配布という時ではあるが、看護短期大学部時代のイベントを継承して今日に至っている。貸出冊数の上位10名を表彰しているのだが、呼ばれる面々を見て「やっぱり」という納得の反応や、時には「えっ!」という意外な反応もある。保健看護学部図書委員会による表彰は、4年生の国家試験前という緊張を弛めるひとときとなっているといえる。

多くの本を借りているということは、それだけ三葛館に足を運び、どこにどのような本があるのか、三葛館を身近に感じている学生といえるだろう。学生時代を彩るものは多種多様であるが、その中に図書館が入っていることはとても重要なことである。和歌山県において、三葛館ほど看護関連の図書がそろっているところは類を見ない。その三葛館で多くの本を借りた学生は、卒業後も頻繁に三葛館に通って来ているのではないだろうか。疑問を解決したいとき、職場での課題達成のため、あるいは研究の発想を得たいときと三葛館を訪れる理由はまちまちであろうが、そこに行けば何らかのヒントが得られるという確信は得がたいものである。学生時代に大いに三葛館を利用し、卒業後も活用していただきたいと希望する次第である。

さて、三葛館には展示図書コーナーがあり、毎月1回の割合で更新されている。2013年1月は、第37回展示図書として「笑う門には福来たる」をテーマに、三葛館所蔵の図書が展示されている。テーマの選定意図や過去の展示図書の内容については、三葛館ホームページに掲載されているので一読していただきたい。司書の方々の、三葛館を身近な存在として感じ、学生生活を豊かなものにしてほしいという思いが十分に伝わってくると考える。読書を通して得られるものは多々あるが、それを自分だけのものとせず、同じ本についてあるいは展示内容について学生同士が語り合える機会を持つことは、自分では思っていなかった新たな気づきを導き出すことに繋がり、さらにお互いを理解する上で有意義な時間となるであろう。そのために三葛館に行き、展示図書コーナーを大いに活用してほしいと願っている。

学生生活を彩る多種多様なものの一つに、是非、三葛館を加えてほしい。そして、卒業後、医療人として、三葛館の活用を生活の彩りの中に加えられることを祈念している。



## 図書館の思い出

保健看護学部 教授 石村 由利子

図書館には2つのタイプがあるといわれます。一つは娯楽の要素が大きい本を揃えたところ。もう一つは調べものをするための資料を揃えた学習の場としての図書館です。

子どものころの私には、図書館を利用した思い出がほとんどありません。よく本を読んでいた記憶はあるのですから、決して読書嫌いだったわけではないのです。その理由の一つは、私の家には祖父の蔵書がたくさん残されており、図書館に行かなくても、面白そうな本を選んで読むことができたことにあります。旧かな使いの、ルビがふってある本ばかりでしたが、夏目漱石も森鷗外も、祖父の蔵書で知りました。

しかし、もっと大きな理由は、私の家の近くにあった町の図書館の外観です。大理石の堂々とした柱がある立派な建物で、何段かの階段を上ったところに入口があり、とても子どもが気軽に入れるところではありませんでした。中に入れば、たぶん子ども向けの本もたくさんあったのでしょうけれど、それらを手に入る機会はありませんでした。当時、もはや図書館が一部の知識層だけのものではなかったのに、その外観は非日常的な特別な空間という印象を与えていました。そのため、子ども時代に読むべき良い本に触れる機会を逸したかもしれません。

大学生以後は、もっぱら後者の目的で図書館を利用してきました。教員という職業を生業としてからは特に、図書館の存在は心強いものでした。私が大学を卒業して病院に就職したころ、文献を探すのは一苦労でした。病院の図書室（図書館ではありません。念のため）で、医学中央雑誌の索引の本からキーワードや著者名を頼りに関連がありそうなものをこつこつと探し出し、さらにそこから医中誌の書誌情報へとたどり着くまでの作業は、実に辛くさいものでした。私のいた病院では、医学中央雑誌は天井近くまである書架の下2段くらいに置かれていました。1年分の分冊を合わせると1メートルをゆうに超える冊数と、厚くて重く、利用者も限られていたことから、そこが指定席であるのは納得できますが、なんとなく書架の間の床を這いずりまわっているような気分になりました。そんなこんなで、5年前くらいまでさかのぼって検索すると肩が凝って、頭痛がしたものです。ややしばらくして、検索誌はCD-ROM版になり、ページを繰る作業をしなくても探せるようになり、ありがたかったことを覚えています。それが今では、研究室のパソコンで簡単に検索できることが当たり前です。見つけた資料も簡単に読めます。付属図書館になくても、その場で文献複写の依頼ができ、数日後には確実に手元に届きます。この間、「図書館」という建物自体に足を運ぶ必要もありません。

すでに図書館は、たくさんの知識を集積した建物の形で存在するだけでなく、情報を蓄えた空間として、さらに多様な形態で情報を提供・発信する機関となっています。これからの図書館が、様々なメディアに対応した情報拠点としての機能と、博物館的な要素を併せ持つ施設として整備されていくなら、同時に、誰でもふらりと立ち寄れるような、開放的な雰囲気も持ち続けてほしいものです。電子書籍が増えてきても、紙媒体の本がなくなることはない信じ、思いがけない本に出会うことを楽しみに足を運びたいと思います。

## 本は学びの玉手箱

保健看護学部 准教授 宮 井 信 行

この原稿の依頼をいただき、私と本との関わりについて改めて振り返ってみました。

田舎育ちだったこともあって、決してインドア派ではなかった私は、学校から帰ると玄関にランドセルを置いたまま空き地や広場で仲間と遊び、日が暮れると家に戻るような生活でした。しかし、夜、布団に入るまでのひとときは好きな本を読んで過ごしていました。また、週末には、家の近くの川原に出かけて、よく川遊びや魚釣りをしました。そのときはリュックに本を入れていき、遊びの合間に読んでいたことも思い出されます。部屋にこもって何かをするのが苦手なタイプでしたので、自然に囲まれ、川のせせらぎや鳥のさえずりを聞きながら本を読むことが心地よかったです（何か子どもらしくありませんが）。それに、当時は今と違って娯楽も少なく、まして田舎ですから、そのような楽しみしかなかったのかもしれませんが。

そのころは、図書館から気に入ったタイトルの本を手当たり次第に借りてきては読んでいたように思います。童話、伝記、歴史ものなどジャンルもさまざまでした。“具体的にどんな本を読んでいたかな？”と考えてみましたが、あまりはっきりとは思い出せません。おそらく、本の内容をしっかりと読み解くというよりも、本を読んで過ごす時間そのものが好きだったのでしょう。

中学生ぐらいになると、読む本の幅も広がっていきました。なかでもよく読んでいたのが、講談社が刊行している「ブルーボックス」です。ご存じの方も多いと思いますが、自然科学全般の話題を、専門家ではない一般読者向けに解説しているシリーズです。内容的には難解なものも少なくないのですが、とても分かりやすく書かれていたため、中学生の私にも楽しく読めるものでした。図書館で借りるのはだいたい生物学や医学の分野のもので、生物の体の構造や機能のしくみのことを扱ったものが多かったように思います。このときの読書を通じての学びは、少なからずその後の私の歩みの礎となっているような気がします。このシリーズは、“読む人に科学的に物を考える習慣と、科学的に物を見る目を養っていただくことを最大の目標”にしている、キャッチコピーは“科学をあなたのポケットに”だそうです（出典：ブルーボックス巻末「発刊のことば」）。まさに出版社のねらいの通りとなりました。

さて、皆さんは、これまで本とどのように関わってきましたか？大学生になると、他のことで忙しく、本を読む機会が少なくなりがちです。実際に私もそうでした。しかし、今振り返ってみると、これから社会に出て立ち立しようとする大学生のときこそ、色んな本を読んで幅広い知識を身につけておくべきだったと思います。月並みですが、読書を通じて人は成長していきます。本から得た学びはそのことだけにとどまらず、どんどんと波及して新たな学びをもたらします。それらはすべて自分にとっての財産であって生きる力となります。また、ただ知識を得るだけではありません。本を読むことは情操を育んだり、感性を磨いたりするのに役立ちます。皆さんの周りには自分を成長させてくれる本がたくさんあります。是非、自分の可能性を広げ、成長を手助けしてくれる数多くの本と出会ってください。本という“玉手箱”を開けば、きっと、自分にとっての“宝物”が見つかるはずです。

## 図書館での出会い

保健看護学部 助教 石谷 朋子

学生時代から図書館三葛館にはお世話になっています。課題が出るたびに図書館に飛び込んで参考文献を借り、実習が終わるとみんなで図書館に集まって励まし合っていたことなどを思い出します。行き詰ったときは、図書館の中を歩き、興味を引くタイトルに注目して本を選び、気分転換をしていました。今でも、同じことをしています。最近、『なぜ、はたらくのか』（加藤寿賀著，主婦の友社，2010年）というタイトルの本に出会いました。この本を読むことでスッと霧が晴れました。「働くことは、端を楽にすることで、自分のしたいことをただすることではない」と筆者は語りかけていました。自分の夢や目標を持つことは必要ですが、その夢や目標を達成するためには、必ず誰かの助けを借りていることを忘れてはいけな<sup>い</sup>と感じました。自分のためだけではなく、大切な人、助けてくれた人へ恩返しをし、また、困っている人への手助けのために一生懸命行うことが「働く＝端を楽にする」ことであると教えてもらいました。

読書の良いところは、他者の体験記や意見、思想を得ることによって、自分の考えを導き出せることだと思います。自分が人生で体験できないことでも、人の体験記を読むことで、「自分だったらどうするか」と考え、疑似体験できます。その体験から、自分の目の前にある大きな壁を打ち砕く術を習得できると考えています。

もっと自分を成長させていくためにも、読書の時間は大切だと日々感じています。

## 図書館サポーターズクラブ“Lapo”2012年度活動報告

皆さん、こんにちは！「Lapo」です。

私達は2011年にこのサークルを結成し、三葛館を中心に活動しています。2012年度は2年目ということで、学生団体に登録し、活動も去年よりは少し幅広くなったと思います。

4月に開催した新入生ウェルカムパーティでは、「Lapo」について紹介させていただき、そこで興味を持ってくださった新入生と交流しました。また、三葛館が実施する図書館新入生オリエンテーションのお手伝いもしました。さらに、8月の夏休みには、蔵書点検の点検作業をお手伝いしました。図書の数が多くて大変でしたが、とても達成感のある作業でした。11月には、「映像で見る」というテーマで、医療を題材としたDVDの展示を企画しました。勉強の参考になるものから息抜きのものまでたくさんあるので是非ご覧下さい。

私達の活動はまだ未熟ではありますが、これからも頑張っていきたいと思います。是非、三葛館や三葛館のホームページに目を向けてみてください。

(保健看護学部 1年 太田桜子)

平成24年度 展示図書テーマ一覧

- 第29回「和医大教員から入学したばかりの君たちに」
- 第30回「最も借りられた展示で賞！2009～2012」
- 第31回「雨ときどき晴れ」
- 第32回「世界で学ぼう！」
- 第33回「みんなのいのちを想う」
- 第34回「からだをリセット！」
- 第35回「読書のススメ」
- 第36回「野菜で元気！」
- 第37回「笑う門には福来たる」
- 第38回「ギリシア神話の世界」

平成24年度保健看護学部卒業生の  
表彰を行いました！

平成25年2月12日に、在学中貸出冊数上位者の表彰を行いました。卒業生1人あたりの平均貸出冊数は176冊で、第1位の方の貸出冊数は553冊でした。平均貸出冊数は毎年増えており、上位に入るのは年々難しくなっています。

サプライズで実施した表彰式は大変盛り上がり、今年の卒業生の明るい雰囲気があふれるひとときとなりました。この絆と本学で培った知識や経験を、これからの人生で役立ててほしいと思います。

MIKAZURA

NOW!

平成23年度 利用統計

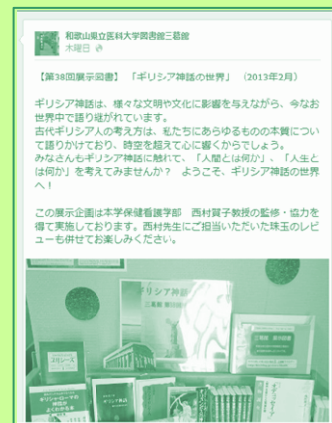
年間開館日	280日
入館者数	30,954人
(1日平均)	110人
貸出人数	7,649人
図書貸出冊数	21,400冊
視聴覚資料貸出件数	171点
相互利用依頼件数	851件
相互利用受付件数	1,294件
学外利用者数	628人

三葛館の蔵書2011

蔵書冊数	52,128冊
うち洋書	7,954冊
所蔵雑誌種数	874種
うち外国語	140種
年間受入図書冊数	2,749冊
うち洋書	245冊
年間受入雑誌種数	471種
うち外国語	109種
(2012/3/31 現在)	

「和歌山県立医科大学図書館三葛館 facebook ページ」を開設しました！

図書館三葛館の広報を目的に、ホームページを補完するために、「和歌山県立医科大学図書館三葛館 facebook ページ」を開設し、2012年11月1日に公開しました。facebook ページでは、新着情報や資料案内など、最新の細かな情報をできるだけ画像とともに発信します。facebook ページは、facebook アカウントをお持ちでない方もご覧いただけますので、是非チェックしてください。



和歌山県立医科大学図書館三葛館 facebook ページ <https://www.facebook.com/wmulmikazura>

## 平成23年度（2011年度）三葛館活動記録

- 4月1日 保健看護学部新規採用教員 図書館オリエンテーション
- 4月4日 第1回保健看護学部図書委員会
- 4月12日 保健看護学研究科 新入生オリエンテーション  
助産学専攻科 新入生オリエンテーション
- 4月14日 医学部 新入生オリエンテーション  
保健看護学部 新入生オリエンテーション
- 4月16日 日本看護図書館協会 第21回総会（（社）兵庫県民間病院協会神戸看護専門学校）
- 4月17日 日本看護図書館協会 2011年度事務引継ぎ会（神戸市勤労会館：兵庫）
- 5月16日 保健看護学研究科「保健看護情報統計学」文献検索講義
- 5月27日 助産学専攻科「助産研究」文献検索講義
- 6月22日 保健看護学部「保健看護研究Ⅰ」 文献検索講義
- 6月29日 保健看護学部FD研修会「海外文献の探し方」講義
- 7月6日 附属病院看護部院内継続教育「看護研究をしようⅠ：文献検索の方法と実際」研修
- 7月12日 EBSCO Publishing 社／株式会社紀伊國屋書店共催セミナー（AP梅田大阪）
- 7月13日 京セラ丸善システムインテグレーション株式会社 大学図書館セミナー2011（セミナーハウス クロス・ウェーブ梅田：大阪）
- 8月2日 株式会社リコー 図書館システムLIMEDIOセミナー（スイスホテル南海大阪）
- 8月8～12日 蔵書点検
- 8月25～26日 日本看護図書館協会 第42回研究会（鹿児島純心女子大学）
- 9月9日 第2回保健看護学部図書委員会
- 9月14日 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）版元提案説明会（関西大学：大阪）
- 10月4日 エルゼビア・ジャパン株式会社 ライブラリ・コネクト・ワークショップ2011（第二吉本ビルディング：大阪）
- 10月6日 保健看護学研究科「英語文献講読」 海外文献検索講義
- 10月22日 日本看護図書館協会 第43回研究会（神奈川県立保健福祉大学）
- 11月9～11日 第13回図書館総合展（パシフィコ横浜：神奈川）
- 11月22日 第3回保健看護学部図書委員会
- 11月25日 保健看護学部「保健看護英語」 海外文献検索講義
- 12月22日 XooNips 研究会 2011 関西ワークショップ（大阪市立大学）
- 1月27日 丸善・DNP 共同企画セミナー（大日本印刷株式会社：大阪）
- 2月2日 第4回保健看護学部図書委員会

### 編集後記

Twitter、ミクシィ、facebookなどのSNSサービス全盛のこのごろですが、三葛館でも2012年からfacebookページを開設しています。これまでの学生ホールと図書館前の掲示板でのお知らせや図書館ウェブサイトでのお知らせに加えて、三葛館を利用するみなさまに多様な入口を用意し、これまではお知らせしづらかった細かな情報を発信していきます。例えば、新着図書のご案内や図書館の使いかた、図書や雑誌、文献の紹介など、皆様に役立つ情報をこまめにお知らせしていきたいと思ひます。

三葛館は、できることから少しずつ「自分を変える」努力をしていきます。今年は「断捨離」も積極的に。(J.S.)



平成25年3月31日発行  
 図書館報 みかづら（第16号）  
 編集・発行 和歌山県立医科大学図書館三葛館  
 〒641-0011 和歌山市三葛580番地  
 TEL (073) 447-2300（代表）  
 (073) 446-6721（三葛館）  
 FAX (073) 446-6730（三葛館）

